



平塚市民病院

令和5年度職員行動計画書

★ビジョン★

「持続的な健全経営の下、高度医療、急性期医療及び政策的医療を担い、患者さんの生命（いのち）を守る診療を行う」

★令和5年度の最重点目標★

新入院患者の増加

令和5年度職員行動計画書

- ・内科(腎臓内分泌代謝内科)・1
- ・呼吸器内科・・・・3
- ・消化器内科・・・・5
- ・循環器内科・・・・7
- ・神経内科・・・・10
- ・緩和ケア内科・・・・12
- ・精神科・・・・14
- ・小児科・・・・16
- ・外科・・・・18
- ・呼吸器外科・・・・20
- ・消化器外科・・・・22
- ・血管外科・・・・24
- ・心臓血管外科・・・・26
- ・脳神経外科・・・・28
- ・乳腺外科・・・・30
- ・整形外科・・・・32
- ・形成外科・・・・34
- ・皮膚科・・・・36
- ・泌尿器科・・・・38
- ・産婦人科・・・・40
- ・眼科・・・・43
- ・耳鼻咽喉科・頭頸部外科
・・・45
- ・リハビリテーション科・
リハビリテーション技術科・47
- ・放射線診断科・・・・49
- ・放射線治療科・・・・52
- ・救命救急センター
(救急科・救急外科)・・・・54
- ・麻酔科・・・・57
- ・看護科・・・・59
- ・ICU・CCU・・・・61
- ・薬剤科・・・・63
- ・放射線技術科・・・・65
- ・臨床工学科・・・・67
- ・臨床検査科・・・・69
- ・栄養科・・・・71
- ・医療安全管理室・・・・73
- ・感染対策室・・・・76
- ・入退院支援・医療相談室
・・・78
- ・経営企画課・・・・80
- ・病院総務課・・・・83
- ・医事課・・・・85

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	内科	総括責任者	部長 厚川 和裕
—		副責任者	主任医長 唐澤 隆明

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①開業医と密接に連携をとり、病診連携を推進します。糖尿病性腎症重症化予防事業を推進します。
- ②血液浄化療法(急性・慢性)を充実します。
- ③新型コロナウイルス感染症に対応可能な医療体制を実現します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
開業医との連携による逆紹介の推進	医師	逆紹介率	100.00%	70.90%
糖尿病性腎症重症化予防プログラムを充実させる	医師, 管理栄養士, 看護師, 病診連携室	紹介率	70.00%	40.34%
紹介患者に関する返書の実施	医師	1週間以内返書率	60%	33.3%

II 患者満足度の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①慢性腎臓病患者の腎代替療法選択のための支援を拡充します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
腎代替療法選択のための説明・相談の充実	医師, 看護師	療法選択選択指導回数	150回以上	158回
腹膜透析治療を充実させる	医師, 看護師, 管理栄養士	腹膜透析新規導入患者数	1名	1名

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	内科	総括責任者	部長 厚川 和裕
—		副責任者	主任医長 唐澤 隆明

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①入院患者を確保することで、入院稼働額の増を目指します。
②職員のコスト意識向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
開業医との連携や新しい治療法による入院患者数の確保	医師	年間新入院患者数	1,920人	1,914人
業務効率化による時間外勤務の削減	医師	1人当たり時間外勤務時間数(月)	月80時間を超えないようにする	25時間00分
適正な入院期間での退院	医師	期間尺度(DPC入院期間Ⅰ、Ⅱの割合)	60%以上	56.1%

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員向け院内研修会での参加や発表を通して自己の研鑽や他の職員の啓蒙に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
院内研修会での発表	医師	職員向け院内研修会での発表数	3～4回	1回
院内研修会への参加	医師	職員向け院内研修会の1人当たりの参加数	1人年6回	1人年5.2回

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

予防医療や災害医療等についての研究会、連絡会への参加を通して地域医療機関との連携を強化します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
地域医療機関主催の研究会、連絡会への参加	医師	参加回数	年3回	1回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	呼吸器内科	総括責任者	科医長 高橋 史成
病棟名	4D病棟	副責任者	

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①地域連携により外来診療効率化や紹介患者の確保に努めます。
②業務の見直しや教育等により入院診療の効率化に努め、肺癌やびまん性肺疾患の患者確保に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
開業医へ資料配布や訪問、勉強会等による紹介患者のやりとり	医師	紹介率	前年度と同等の水準。	116.98%
肺癌新規患者の確保	医師	化学療法導入数	40例/年	12例/年
開業医、市民向けの勉強会	医師	講演回数	2回/年	1回/年
びまん性肺疾患の症例の受け入れ	医師	入院者数	40例/年	20例/年

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

診療の質を向上することで患者満足度を改善します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
適正な入院期間の維持	医師	期間尺度	66.0%	65.2%
呼吸サポートチーム回診	医師	回診数・加算	前年度と同等の水準	108例/年
緩和ケアチーム回診	医師	回診数・加算	80例/年	なし
外来待ち時間の短縮	医師	診療時刻－受付時刻	25分	34分

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	呼吸器内科	総括責任者	科医長 高橋 史成
病棟名	4D病棟	副責任者	

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

病床稼働率の向上や適切な医療材料使用による収入確保に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
在院日数の最適化による入院診療単価の増加	医師	入院診療単価	前年度と同じ水準	57,163円
入院患者の確保・維持	医師	年間新入院患者数	187人	159人
気管支鏡検査数	医師	新入院患者数	80人/年	50人/年

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

研修医向けの勉強会、看護師・コメディカル向けの勉強会を開催します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
前期・後期研修医向けの勉強会	医師	開催回数	2回/年	1回/年
コメディカル向け勉強会（RST、ASTの活動）	医師	開催回数	2回/年	1回/年

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学術活動と診療の両立を目標とします。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
学会発表	医師	発表回数	2回/年	1回/年
論文作成	医師	作成数	1回/年	0回/年

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	消化器内科	総括責任者	部長	谷口 礼央
—		副責任者	医長	立川 準

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

① 地域との連携を重視した地域医療体制への貢献、それによる安定した診療報酬の確保を目指します。
(現状、良好な連携数値を達成しているため、現況の継続を目指します。)

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
開業医との連携による紹介患者の獲得	医師	紹介患者数	R4実績を維持	1,406人
開業医との連携による逆紹介の推進	医師	逆紹介患者数	R4実績を維持	1,651人

II 患者満足度の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

① 市民講座等を通じて、新規患者の増加を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
消化器癌に対する市民講座の実施	谷口	市民講座の実施	市民講座の実施	実施なし

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	消化器内科	総括責任者	部長	谷口 礼央
—		副責任者	医長	立川 準

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ① 診療密度の上昇を目指します。
- ② 新規患者数の増加を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
適正な入院期間での退院	医師、看護師、退院支援室	期間尺度 (DPC 入院期間 I、II の割合)	60%	57.5%
胃ESDパス改善	医師	期間尺度 I・II 内での退院	合併症症例を除いて100%を目指す	—
大腸ESDパス改善	医師	期間尺度 I・II 内での退院	合併症症例を除いて100%を目指す	—
大腸EMRパスの新設	医師	新規入院患者数	30名	—

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ① 専門医資格の取得を励行します。
- ② 内視鏡手技の向上を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
専門医資格の取得励行	医師	該当年次における専門医資格の取得	同右。	内科専門医 3人
各医師の内視鏡手技の向上	医師	内視鏡件数の増加	総内視鏡件数 6,500件	総内視鏡件数 6,323件

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ① 地域救急医療へ貢献します。
- ② 開業医と連携します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
地域救急への貢献	医師	三次救急への貢献	現状通り、内科救急業務を担当。	内科救急8/10枠を消化器内科で実施
開業医との連携	医師	クロスピッチ対応	クロスピッチ再開後は以前と同様に対応。	—

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	循環器内科	総括責任者	部長 片山 隆晴
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①循環器救急疾患(特に急性心筋梗塞)診療の充実に努めます。
- ②近隣医療機関との連携強化に努めます。
- ③診療の先進化による他院との差別化をめざします。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
急性心筋梗塞、急性期診療体制の充実	医師、看護師、ME、放射線科技師	症例数	100件	89件
開業医との連携による逆紹介の推進	医師	逆紹介率	200%	276.25%
働き方改革に基づき、医師業務のタスクシフトを取り入れます。	医師、看護師、ME、放射線科技師	時間外勤務時間数	80時間/月以内	1人当たり51時間54分/月
クリニカルパス見直し等による入院期間の短縮に努めます。	医師、その他多職種	入院期間尺度の増加	65%	70.7%
FFR-冠動脈CTの導入	医師	年度内の導入	年度内の導入	なし

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①市民病院に対する市民の評価向上を図ります。
- ②高齢化に伴う疾患増加率の高い心不全患者の診療満足度向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
医師・心不全認定看護師によるコラボレーション外来の拡充を図ります。	医師・心不全認定看護師	対応患者数	11人/月 132人	10.9人/月 131人
末期心不全に対する緩和医療の拡充	医師・心不全認定看護師	対応患者数	12人	2人

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	循環器内科	総括責任者	部長 片山 隆晴
—		副責任者	

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①紹介患者、救急患者など新入院患者増加に努め、入院稼働額の増加を目指します。
- ②職員のコスト意識の向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
紹介患者獲得のための開業医訪問	医師、事務	開業医訪問件数	12件/年	13件/年
PCI件数(緊急症例・待機的症例)の増加	医師	年間PCI件数	200件	180件
新入院患者増加を目的とした広報活動(市民向け講演会、市広報誌執筆、ホームページ改変等)	医師、事務	講演数、執筆数など	2回	2回
諸取り組みによる紹介率アップ	医師、事務	紹介率	85%	94.25%
経皮的心肺補助PCPSIによる救命治療の拡充	医師	年間PCPSI件数	7件	7件
ICDおよびCRTの新規植え込みの増加	医師	年間ICD+CRT件数	3件	2件

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度(やりがい度)の獲得(職場環境、研修・教育、評価と処遇改善)
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①職員の能力向上と病院経営の理解に努めます。
- ②有給休暇取得を推進し、職員満足度向上に努めます。
- ③専門医取得を奨励し、学会での格上げを目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
CVIT研修関連施設から研修施設への格上げ	医師	PCI症例数(200症例以上)	200件	180件
有給休暇取得	医師	有給休暇取得日数	最低5日間	1人平均9.9日

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	循環器内科	総括責任者	部長 片山 隆晴
—		副責任者	

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①論文、学会発表などの学術活動の充実を図ります。
- ②将来の医療の担い手である学生教育に貢献します。
- ③市民の健康・医療に関する関心を高め、循環器疾患の啓蒙活動に貢献します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
論文・学会・研究会での発表数	医師	発表数	3回	4回
学生実習の受入数	医師	受け入れ学生数	3人	2人
市民向け講座の開催	医師	開催回数	1～2回	1回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	脳神経内科	総括責任者	部長 田川 朝子
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

脳卒中、免疫性神経疾患の診療の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
脳卒中患者の積極的な受け入れ	脳神経内科医	症例数	年間60例	-
IVIg、血液浄化療法などの診療を行う	脳神経内科医	症例数	年間15件	年間15件以上

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

診療上は患者さんへのインフォームドコンセント、必要に応じて地域住民への啓発活動を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
外来診療の効率化	脳神経内科医			
地域住民への講演	主に田川、福武	講演会数	年1回～2回	0回

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

コスト意識をもって、必要な検査を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
特殊な免疫診療を入院のうえ、積極的に行う。	脳神経内科医	症例数	IVIg年10件	-

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	脳神経内科	総括責任者	部長 田川 朝子
—		副責任者	

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

他職種、研修医の指導のためカンファレンス、学会発表などを促します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
院内他職種向け勉強会	田川、福武	開催回数	年5回	年6回
研修医学会発表	福武、田川	発表回数	年3回	—
学会発表(スタッフ)	脳神経内科医	発表回数	年5回	年3回
論文作成	脳神経内科医	作成数	年1本	年1本

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

県内、市内の神経内科医や薬剤師への啓発活動を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
講演会研修など	田川、福武、菊池	実施回数	10件以上	10件以上

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	緩和ケア内科	総括責任者	部長	中川 基人
—	緩和医療委員会	副責任者	看護科長代理	中村 綾子

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

緩和ケアチームで関わる専門的・高度緩和医療を数多く提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
緩和照射を積極的に行う	医師	緩和ケアチームで関わる緩和照射実患者数	5	3
がん転移による病的骨折の診療を積極的に行う	医師	緩和ケアチームで関わるがん転移による病的骨折患者数	集計難	集計難
麻酔科医師によるペインクリニックを積極的に行う	医師	緩和ケアチームで関わる麻酔科医師の行う疼痛緩和患者数	0	(—)
心不全に対する緩和医療を積極的に行う	医師	緩和ケア診療加算(入院)(390点)を算定する患者数	5	2

II 患者満足度の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者さん同士、患者さんと医療者が緩和医療に関わる苦痛や悩みを安全に語り合うことができる場を設けます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
苦痛のスクリーニングを実施する	医師、看護師、薬剤師	実施回数	2,000件	1,979件
がん患者会「なでしこの会」を開催する	医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士	参加者人数	10人	1人(オンライン1回・対面1回)
緩和ケア週間にちなんだイベントを開催する	医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士	来場者の人数	20人	実績なし

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	緩和ケア内科	総括責任者	部長	中川 基人
—	緩和医療委員会	副責任者	看護科長代理	中村 綾子

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

算定につながる緩和医療を委員が熟知し、積極的な緩和医療を提供する中で算定漏れを発生させません。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
緩和ケア診療加算(入院)(390点)を算定する	医師	算定件数	400(1000の2/5)	501
癌性疼痛緩和指導管理料(200点)を算定する	医師	算定件数	150(少し減)	169

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度(やりがい度)の獲得(職場環境、研修・教育、評価と処遇改善)
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

病棟入院患者に対する緩和医療の内容に沿った病棟看護師向け研修会の積極的に定期開催します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
緩和ケアチームメンバーから成る多職種講師による病棟単位の勉強会(おしかけ勉強会)を開催する	医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、MSW、心理士、医事課	参加者人数	80人(8部署で開催予定)	3回(実績人数の確認取れず)

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献(災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など)
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員のみならず地域の医療従事者に有用な研修機会を持ちます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
日本緩和医療医学会認定緩和ケア研修会を開催する	医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、MSW、心理士、医事課	開催回数	20人の参加者(うち5人は当院職員以外)	20人

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	精神科	総括責任者	科医長 森長 修一
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

病棟主治医と連携し、入院患者のせん妄発症予防に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
院内採用睡眠薬の適正化	医師	院内採用睡眠薬の減少	1種類削減	マイスリー削減

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者さんやその家族に分かりやすい情報発信を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
病院HPに向精神薬の注意事項を掲載	医師	HP更新	完成	—

III 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

コストを意識し、適切な加算請求を心がけます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
カルテ上の精神科指導料の見直し	医師	指導料種類の増加	1種類増加	—

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	精神科	総括責任者	科医長 森長 修一
—		副責任者	

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

研修医の精神科領域の教育に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
発達障害に関するクルズス開催	医師	実施	1回実施	—

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学会や研究会に積極的に参加し、研鑽に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
学会・地方会への参加	医師	出席回数	2回以上	1回
他医療機関との合同カンファレンスへの出席	医師	出席率	80%以上	60%

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	小児科	総括責任者	部長 福島 直哉
病棟名	5D小児科, NICU	副責任者	

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ① 質の高い高度医療を提供するため、紹介患者を中心とした診療を展開します。
- ② 小児救急・周産期救急医療維持のため必要な小児科医を確保します。
- ③ 産科と連携し、地域の産婦人科開業医からの新生児・母体搬送を積極的に受け入れます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
紹介患者獲得のための開業医との連携	医師	紹介数	1,050人	1,026人
開業医への逆紹介の推進による外来業務の効率化	医師	逆紹介数	400人	375人
小児救急・周産期救急医療体制維持のため必要な小児科医の確保	医師	小児科医師数 (病院長を除く)	10人	8人

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ① 24時間、365日小児・新生児の受け入れに努力します。
- ② 小児病棟・NICU・GCUにぬくもり空間を作ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
小児救急・周産期救急医療体制のため必要な小児科医の確保	医師	小児科医師数 (病院長を除く)	10人	8人
クリスマス会などの各種イベントの開催	医師・看護師・保育士	イベント・読み聞かせ 開催数	2回	0回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	小児科	総括責任者	部長 福島 直哉
病棟名	5D小児科, NICU	副責任者	

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

空床を減らし病床を有効に活用します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
予定入院増加による空床の有効活用	医師	予定入院数	100件	75件
新入院患者数の増加	医師	新入院患者数	860人	603人

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員の能力向上と病院経営の理解に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
学会、院外研修会への参加	医師	参加回数	1人あたり3回	1人あたり年1.5回

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

論文・発表などの学術活動の充実を図ります。市民の健康・医療に関する関心を高めるのに貢献します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
学会研究発表	医師	発表数	年4回	5回
小児科に関心のある学生の実習受入	医師	学生実習受入数	5人	4人
市民・患者サービスの向上のため、市民向け講座の開催	医師	市民向け院内講座の開催回数	2回	2回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	外科	総括責任者	部長 高野 公德
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①手術(高度な医療)が必要な患者に24時間365日、一件でも多く質の高い外科手術を提供します。
- ②双方で顔の思い浮かぶ病診連携により入院期間の短縮および外来診療の縮小を目指します。
- ③多職種連携チームの活動を通じてSSIの減少に取り組みます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
技術習得等による手術実行数の増	医師	消化器外科、乳腺外科、血管外科、呼吸器外科、救急外科の手術件数	1,200件/年	1,389件/年
信頼関係の強い病診連携先数を得るための開業医訪問回数増	医師、事務職	訪問回数	2回/月 以上	9回/年
SSI(術後創感染)発生率の減	医師、事務職	消化器外科でのSSI発生率	5.0%未満	5.9%
退院時診療情報提供の積極的な実施	医師	消化器外科、乳腺外科、血管外科、呼吸器外科、救急外科全体での退院時診療情報提供書の作成率	40% 以上	23.7%

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

分かりやすい説明により、患者さんが安心して受診できる体制を整えます。当科で施行している先進的な医療について地域の先生方に紹介します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
ホームページの充実	医師、薬剤師	外科ホームページの更新回数	3回/年	4回
ホームページでの先進医療の紹介動画作成	医師	紹介動画作成数	3本/年	0本/年
術式・疾患に対応したICフォームの作成	医師	ICフォームの総数	30種類 以上	21種類

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	外科	総括責任者	部長 高野 公德
—		副責任者	

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

収入確保と支出削減に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
手術を数多く行うことによる診療稼働額増及び診療単価増	医師	消化器外科、乳腺外科、血管外科、呼吸器外科、救急外科の手術件数	1,400件	1,389 件/年
サージレーンの解析結果を業者、事務職と協力して分析し、手術に関する支出を減少させる	医師・事務職・業者	実施	実施	実施

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

外科専攻医およびスタッフの専門医資格の取得を積極的に支援します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
教育的カンファレンスの充実	医師	実施	3回/週	3 回/週
新規専門医資格の取得	医師	取得件数	4件/年	5 件/年

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

論文・発表などの学術活動の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
論文発表	医師	発表数	5編/年	3編
市民向け講座の開催	医師	開催回数	2回/年	0回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	呼吸器外科	総括責任者	部長 須賀 淳
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①地域連携により外来診療効率化や紹介患者の確保に努めます。
②業務の見直しや教育などにより入院診療の効率化に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
開業医へのチラシ配布や訪問などによる紹介患者の確保。肺癌検診読影会での指導。	医師	紹介率	前年度と同等の水準。	83.87%
紹介患者による手術件数の確保	医師	手術件数	60件	45件
クリニカルパスの導入	医師、看護師、事務職	パス適用症例数	60件	41件

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

診療の質を向上することで患者満足度を改善します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
平均在院日数の短縮による患者負担の軽減	医師	平均在院日数	前年度と同等の水準	5.4日
術後合併症による再手術の減少	医師	術後再手術件数	0件	0件

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	呼吸器外科	総括責任者	部長 須賀 淳
—		副責任者	

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

病床稼働率の向上や適切な医療材料使用による収入確保に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
在院日数の最適化などによる入院診療単価の増加	医師	入院診療単価	前年度と同じ水準	144,391円
地域連携に基づく入院患者数の確保	医師	新入院患者数	120人	106人
手術毎の自動縫合器使用本数の削減	医師	自動縫合器超過使用本数	可能な限り、自動縫合器加算上限本数以内で使用	11本
高額医療材料使用の見直し、安価で質の良い医材導入検討、他科で使用している医材との共用	医師	医材費	前年度と同じ水準	12,706,585円

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

前期後期研修医向けの勉強会、病棟看護師向けの勉強会を開催します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
前期後期研修医向けの勉強会	医師	手術・処置などの勉強会	12回/年	12回/年
看護師向けの勉強会	医師	手術・処置・ドレーン管理などの勉強会	2回/年	1回/年

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学術活動と診療の両立を目標とします。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
学会発表	医師	学会発表回数	4回/年	3回/年
論文発表	医師	論文発表回数	1回/年	0回/年

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	消化器外科	総括責任者	部長 藤崎 洋人
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

より多くの症例に対応し、医療の質の向上を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
消化器外科手術件数の増加	医師	手術症例数	950件	911件
予定手術の周術期死亡ゼロ	医師	周術期死亡数(予定手術)	0件	0件

II 患者満足度の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

より詳細な情報発信により、安心して受診していただけるような環境を整備します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
病院ホームページの充実	医師	内容の充実	トピックスの更新、手術症例数の推移や手術成績の表記	手術症例数の推移更新、トピックス2件追記

III 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

引き続き手術症例の増加による収入増を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
手術症例の増加による入院診療単価の増	医師	入院診療単価	前年度比5%増	112,482円

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	消化器外科	総括責任者	部長 藤崎 洋人
—		副責任者	

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員の能力向上と働き方改革を遵守した労働環境の整備に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
学会発表	医師	発表回数	20回	19回
時間外勤務の削減	医師	時間外勤務、80時間以上/月がない	100%	91.70%

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学術活動の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
論文発表	医師	発表回数	年5編	年3編

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	血管外科	総括責任者	科医長 林 啓太
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①低侵襲治療を積極的に導入し、在院日数削減を目指します。
- ②効率的な業務遂行のため、業務内容の定型化を目指します。
- ③他科と連携した診療体勢を強化します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
DPC入院期間IIまでの退院	医師	期間尺度(DPC入院期間IIまでの退院率)	80%以上	86.3%
クリニカルパスの導入・運用	医師・看護師	クリニカルパスの導入・運用件数	新規導入:2件 運用:50件	新規導入:0件 運用:84件
他科と連携して行った手術	医師	手術症例数	60%	63%

II 患者満足度の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①患者さんに最新の情報を分かりやすく発信します。
- ②患者満足度向上を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
広報雑誌「SMILE」の掲載	医師・経営企画課	掲載件数	1件	0件
手術説明文書・同意書の見直し	医師	見直した資料の種類	全種類	0種類
血管外科・血管センターホームページの拡充	医師・経営企画課	更新頻度	1回以上/半年	1回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	血管外科	総括責任者	科医長 林 啓太
—		副責任者	

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①従来の手術件数を維持します。
- ②診療科稼働額維持、査定率減少による増収を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
手術件数の維持	医師	手術件数	250件以上	281件
診療科稼働額の維持	医師	診療科稼働額(入院)	200,000,000円	125,727,837円
詳細な症状詳記記載による査定率の減少	医師	査定率	一次査定 1%以下	0.26%

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①新たな専門資格の取得を目指します。
- ②専門分野に関する最新の知見を積極的に獲得していきます。
- ③適切かつ効率的な休暇が取れる職場環境を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
専門資格の取得	医師	資格取得数	1件以上	ステントグラフト実施医1件 ステントグラフト指導医1件
学会への参加	医師	参加回数	2回以上	2回
有給休暇の取得	医師	取得日数	10日以上	18日

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①当院での活動内容を積極的に体外へ報告して参ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
学会・講演会での発表	医師	発表回数	2回以上	1回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	心臓血管外科	総括責任者	部長 笠原 啓史
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①心臓大動脈疾患の緊急症例(急性期・救急医療)に対応します。
 ②質の高い高度医療を提供します。
 ③チーム医療の強化と医療の質の向上を図ります。 ④術前カンファレンスによる手術品質の向上を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
心臓大動脈疾患の緊急症例に対応	医師	緊急手術件数	20例	26例
高度な心臓外科手術(複合手術)の遂行	医師	複合手術件数	40例	26例
ドライラボ、ウェットラボの活用	医師、看護師、ME	講習会開催数	1回	2回
術前カンファレンスの開催	医師、看護師、ME	開催数	全予定手術	全予定手術

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①患者さんの理解を深めた医療提供、患者満足度の向上を図ります。
 ②地域の広報誌へ掲載します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
画像供覧による分かりやすい手術説明	医師	患者家族からの feedback	苦情なし	0件
親切かつプライバシーに配慮した病棟回診	医師、看護師	感謝・お褒めの言葉	2件	4件
地域情報誌への掲載依頼	医師	掲載数	1件	0件

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	心臓血管外科	総括責任者	部長 笠原 啓史
—		副責任者	

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①紹介患者獲得のため、循環器内科医との病診連携の継続と強化をします。
②内視鏡併用低侵襲心臓手術(MICS)を導入し、新規症例の獲得を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
紹介患者獲得のため病診連携の継続	医師	紹介入院患者数	60例	79例
MICS症例数	医師	手術件数	3例	0例

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員の能力向上および満足度向上のための機会を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
研修医のための心臓手術シミュレーション	医師	参加者数	10人	23人
心臓血管外科のドライラボによる手術シミュレーション	医師	受講者人数	10人	6人

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①アカデミックサーजनとして業績を構築します。
②近隣病院循環器科との連携会・研究会などを開催します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
レジデントは地方会、スタッフは全国規模学会発表	医師	学会発表数	5回	7回
論文発表	医師	論文受理数	1編	0編
他院の循環器科との連携会、地域の研究会など	医師	研究会実施参加数	3回	4回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	脳神経外科	総括責任者	部長	中村 明義
病棟名	3A、救急、ICU	副責任者	主任医長	黒島 義明

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①地域医療支援のため、紹介及び逆紹介を積極的に行います。
②重症患者の診療を中心に行うため、手術室の有効利用を図り、手術件数の増加に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
開業医との連携による紹介の推進	医師	紹介数	160人	109人
開業医との連携による逆紹介の推進	医師	逆紹介数	450人	422人
紹介、救急症例の増加による手術件数の増加	医師、看護師	手術件数	190件	186件

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

重症患者を受け入れ、いつでも緊急手術に対応可能な体制を整備します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
緊急手術件数の増加	医師、看護師	緊急手術件数	150件	136件

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	脳神経外科	総括責任者	部長	中村 明義
病棟名	3A、救急、ICU	副責任者	主任医長	黒島 義明

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①入院患者を確保することで入院稼働額の増を目指します。
②職員のコスト意識向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
新入院患者数の増加	医師	新入院患者数	350人	319人
重症患者確保による入院診療単価の増加	医師	年間入院診療単価	90,000円	75,875円
1日当たり平均入院患者数	医師	1日当たり平均入院患者数	20人	18.4人
DPC入院期間Ⅱまでの退院	医師、看護師、MSW	期間尺度(DPC入院期間Ⅱまでの退院率)	70.00%	48.6%
業務の効率化による時間外勤務の削減	医師	1人当たり時間外勤務時間数	55時間	59時間18分

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

専門研修基幹施設との連携強化を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
専門研修基幹施設との研修会への参加	医師	参加数	年3回/科	3回

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

論文・発表など学術活動の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
論文数	医師	論文数	2編/科	1編
研究発表	医師	発表数	2回/科	1回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	乳腺外科	総括責任者	部長 米山 公康
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

他科と連携し、質の高い医療を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
形成外科との連携による乳房再建術数の増加	医師	乳房再建術数	5件	1～2件
化学療法実施数の増加	医師	化学療法施行数	前年度を上回る	649件

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

媒体を積極的に活用し、患者さんに安心して受診していただける体制を整備します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
ホームページの充実(乳腺センターも含めて)	医師	改訂回数	2回	2回

III 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

医療資源を効率的に活用します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
化学療法の1日入院での実施(ハーセプチン、パージェタ、ドセタキセル含む)	医師	件数		
手術件数の増加	医師	手術件数	前年度を上回る	106件
新入院患者数の増加	医師	新入院患者数	188件	162件

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	乳腺外科	総括責任者	部長 米山 公康
—		副責任者	

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

院内カンファレンスを実施・参加します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
カンファレンスの継続実施	医師・技師	実施回数	継続実施	術前画像:週1回 乳腺病理:月1回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学術活動を推進します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
学会発表	医師	発表数	年1回	2回
論文発表	医師	論文数	年1本	0本

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	整形外科	総括責任者	部長 加藤 創太
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①脊椎・関節・手の外科領域で専門性の高い手術医療を提供します。
②救命救急センター・麻酔科・手術室と連携し、適確かつ迅速な急性期医療を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
手術件数増加による手術室の適正運用の推進	医師	整形外科手術件数	1,100件	1,172件

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者さんにとって安心できる診療体制を整えます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
業務の効率化による外来待ち時間の短縮	医師、外来看護師、事務職	患者一人あたりの平均待ち時間	30分以内	28分

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

専門性の高い手術治療および急性期治療を積極的におこない、入院患者を確保すると共に収益の増加を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
開業医および救命救急センターとの連携による新入院患者の確保	医師	年間新入院患者数	1,205人	1,099人

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	整形外科	総括責任者	部長 加藤 創太
—		副責任者	

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員の能力向上と病院経営の理解に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
学会、院外研修会への参加	医師	参加回数	1人当たり年3回	1人当たり年1.3回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

発表などの学術活動の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
学会研究発表	医師	発表数	年4回	3回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	形成外科	総括責任者	科医長 平尾 高行
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

形成外科特有の手術件数の増加を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
広報活動を強化します。	医師	乳房再建件数	10件	4～5件
広報活動を強化します。	医師	LVA件数	5件	2件
広報活動を強化します。	医師	眼瞼下垂件数	30件	33件

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者さんへの分かりやすい情報提供を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
SMILEへの寄稿	医師	寄稿数	1回	1回

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

入院患者数の増加を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
紹介患者増加へ向けた行動	医師	新入院患者数	140人	106人

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	形成外科	総括責任者	科医長 平尾 高行
—		副責任者	

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

救急外来での創処置を見直します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
研修医に向けたレクチャーの実施	医師	日数	1日	1日

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学術活動の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
論文発表、学会発表	医師	総発表数	3回	1回
学会発表	医師	総出席数	5回	1回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	皮膚科	総括責任者	部長 栗原 佑一
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

病院として求められる、質の高い、適切な医療提供を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
紹介患者を増やす	医師	新入院患者数	233人	200人
周辺クリニックや病院への広報活動(訪問)	医師・地域連携室	クリニック訪問	10件/年	0件
形成外科との連携強化	皮膚科・形成外科	合同カンファレンスの実施	12回/年	0回

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

検査や病院で求められる治療に重点を置きます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
日帰り手術 待機期間の短縮	医師、看護師	手術待機期間	1ヶ月	1.3ヶ月

III 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

職員のコスト意識の向上と業務効率化によるコスト削減により単価の上昇を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
スタッフミーティングによるコストへの意識を高める	医師、看護師、事務	ミーティング実施回数	2ヶ月に1回	6回
入院治療のパス化を促進する	医師、看護師	パス患者数	45%? (昨年度データに少し上乘せたいです)	26.44%
新入院患者数の増加	医師	新入院患者数	233人	200人

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	皮膚科	総括責任者	部長 栗原 佑一
—		副責任者	

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①知識の充実と技能向上のため、学会への参加や他病院見学を積極的に行います。
②院内研修会に積極的に参加します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
院内研修会への参加	医師	参加回数	年 6回/人	年 4.5回/人
学会、講演会への参加	医師、看護師	参加回数	年 2回/人	15回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

論文、学会発表などの学術活動の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
学会発表	医師	学会発表数	8回/年	10回/年
論文作成	医師	論文数	4編/年	7編/年

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	泌尿器科	総括責任者	科医長 澤田 康弘
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①最先端手術を導入し、実施します。
②開業医との連携強化を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
ロボット支援下手術の施行	医師	手術件数	50件	12件
手術件数の増加	医師	手術件数	500件	470件
手術症例の紹介	医師	紹介患者数	400人	386人
患者の相互紹介	医師	逆紹介患者数	400人	377人

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①患者さんへ最新情報を提供します。
②患者さんが納得できる医療を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
ホームページの充実	医師	ホームページの更新	2回	2回
クリニカルパスの充実	医師	クリニカルパスの新規作成	4個	0回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	泌尿器科	総括責任者	科医長 澤田 康弘
—		副責任者	

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①適切な入院加療を行います。
- ②過剰な医療を抑制します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
新入院患者の確保	医師	年間新入院患者数	500人	490人
適正入院期間での退院	医師	入院期間Ⅱまでの退院割合	90%	88.9%
効率の良い病棟運営	医師	入院診療単価	90,000円	88,610円

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①職員のスキルアップを図ります。
- ②職員のモチベーションの向上を図ります。
- ③職員の精神安定を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
学会・研究会等への参加	医師	参加回数	1人当たり年2回	1人当たり年2回
有給休暇の取得	医師	休暇取得日数	1人当たり年10日以上取得	1人当たり20.5日

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①学術活動の充実を図ります。
- ②市民や開業医・近隣病院への啓発活動を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
学会・講演会での発表	医師	発表数	4回	0回
市民向けの講座開催	医師	開催回数	2回	0回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	産婦人科	総括責任者	部長	笠井 健児
病棟名	4A、5D産科	副責任者	部長	藤本 喜展

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①市内診療所、県内病診との連携を主導します。
- ②効率的な業務に努めます。
- ③ロボット手術の稼働に向けて情報を発信します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
平塚市産婦人科医会の運営(会長職)	医師	紹介率	78%	71.99%
神奈川県産科婦人科医会参加 (総務部・周産期部)	医師	紹介率	78%	71.99%
逆紹介の推進	医師	逆紹介率	40%	30.84%
HP改訂、チラシ発行などで情報発信し、紹介患者を確保	医師	紹介率	78%	71.99%

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①快適な出産環境を提供します。
- ②新型コロナウイルス関連分娩に対応いたします。
- ③わかりやすい情報発信に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
母体搬送の積極的受け入れ	医師・助産師	受け入れ患者数	40件	38件
周産期救急の受け入れ	医師・助産師	受け入れ患者数	320件	255件
婦人科救急の受け入れ	医師・助産師	受け入れ患者数	40件	36件
手術説明書等の内容見直し	医師	見直した書面の種類	5種	11種

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	産婦人科	総括責任者	部長 笠井 健児
病棟名	4A、5D産科	副責任者	部長 藤本 喜展

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①新たな入院患者の確保により、医業収益の向上を図ります。
- ②職員のコスト削減意識を賦活し、コスト削減に務めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
病診連携による新入院患者の確保	医師	新入院患者数	865人／年	865人
腹腔鏡下子宮全摘術、悪性腫瘍手術実施推進による入院診療単価の増加	医師	入院診療単価	87,000円	86,028円
時間外勤務時間の削減	医師	平均時間外勤務時間数	40時間	46時間18分
有給休暇取得	医師	平均取得日数	8日	3.75日 (R4.10在籍の4人で計算)

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①所属を越えたりエゾン教育で、新人職員の能力向上を支援します。
- ②病院経営の理解に努めます。
- ③ロボット手術導入に向け、職員の研修を開始します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
学会、研修会への参加（リモート環境下含む）	医師	参加回数	5回	5～6回
新人指導を目的とした勉強会	医師・看護職	開催回数	2回	2回
ヒノトリ医師研修開始	医師	certificate取得	3名	0名

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	産婦人科	総括責任者	部長 笠井 健児
病棟名	4A、5D産科	副責任者	部長 藤本 喜展

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①学会発表、論文投稿など、学術活動の充実を図ります。
- ②医学生の臨床実習を積極的に受け入れます。
- ③健康、医療に関する市民の関心にお応えします。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
学会発表	医師	発表数	4回	3回
論文投稿	医師	投稿数	1編	0編
当科志望医学生の臨床実習受け入れ	医師	受け入れ学生数	3名	3名
市民向け講座の開催(開催形式次第)	医師	開催回数	1回	0回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	眼科	総括責任者	部長 白石 亮
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

開業医との連携を深め地域医療の充実を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
患者を紹介しやすいように開業医へ細やかな情報発信を行います	医師	紹介患者数	300人	312人
開業医との連携による逆紹介の推進	医師	逆紹介率	150%	90.13%

II 患者満足度の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

白内障手術の入院日数(日帰り、1泊2日)を多様化して患者満足度向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
看護部など関係部署との交渉など	医師	日帰り手術の実施		

III 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

紹介数を増やすことで手術患者を確保して入院稼働額増を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
手術患者の増加	医師	新入院患者数	250人	193人

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	眼科	総括責任者	部長 白石 亮
—		副責任者	

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

外来スタッフの能力向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
科内勉強会・カンファレンス	医師、看護師、視能訓練士等	開催数	月1回	年4回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

眼科医療に関心のある学生等の育成に貢献します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
眼科医療に関心のある学生等の受け入れ	医師、視能訓練士	受け入れ人数	2～3人	0人

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	総括責任者	科医長	野口 勝
—		副責任者		

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

近隣医院との連携を深め、病診の機能分化を推進します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
医院との連携による紹介患者の確保	医師	紹介率	80%	74.58%(490人/657人)
医院との連携による逆紹介の推進	医師	逆紹介率	70%	37.75%(248人/657人)

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①投薬、手術以外に患者さんのQOLを上げる取り組みを行います。
②症例に応じて入院期間の短縮を行い、忙しい患者さんのニーズにも対応してゆきます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
耳鼻咽喉科領域のリハビリテーションに関する説明書作成	医師	作成件数	1件	2件
短期入院のクリニカルパスの作成	医師	作成件数	3件	0件

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

収入を確保し、健全な病院経営に寄与します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
入院患者の確保	医師	新入院患者数	110人	106人
手術患者の確保	医師	全身麻酔手術件数	50件	60件

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	総括責任者	科医長 野口 勝
—		副責任者	

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①院内外の研修会に積極的に参加し、自己研鑽を行います。
- ②院外の研修会に対しては積極的に休暇を取得し参加します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
院内外への研修会への参加・実施	医師	研修会の回数	2件	2件
年5日以上の年次有給休暇取得	医師	休暇取得日数	計5日/年以上	平均9.5日/人

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①地域の学術活動や講演会への参加・発表を行います。
- ②近隣医院への訪問を行い、地域のニーズにあった医療を探求します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
学会・研究会・講演会への参加・発表	医師	参加・発表回数	2回	1回
近隣医院への訪問	医師	訪問回数	5回	3回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	リハビリテーション技術科	総括責任者	部長 科長	加藤 創太 金野 千帆
—		副責任者	科長代理	大塚 敬三 相原 将文

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

ICU・CCU・救急病棟において超急性期リハビリテーションを実施します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
早期・リハビリテーション加算算定の充実	医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	加算算定者件数	3,600件	2,680件

II 患者満足度の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者会やイベントにてリハビリテーションの視点で参加者にわかりやすい説明を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
ブルーサークルフェスタ(糖尿病週間)への協力	糖尿病診療対策委員会	共同参加	1回	0回
湘友会(糖尿病友の会)への参加と講義	糖尿病診療対策委員会	講義またはチラシ配布回数	1回	1回

III 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

新たな診療報酬算定に向け努力します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
排尿自立支援加算取得に向けての協力	医師・看護師 作業療法士	新規加算算定の開始	1件	—
外来心臓リハビリテーション算定に向けての協力	医師・看護師 理学療法士	プロジェクトチーム始動	1件	—

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	リハビリテーション技術科	総括責任者	部長 科長	加藤 創太 金野 千帆
—		副責任者	科長代理	大塚 敬三 相原 将文

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

増収（取得単位数増加）に向けて、新規雇用者を教育できる環境作りを行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
新人教育制度の検討・確立（マニュアル作成）	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	作成件数	1	—

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①災害医療活動に参加協力します。
- ②学生実習を受け入れる体制を整えます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
災害医療への参加	DMAT隊員	DMATへの参加（災害医療関係行事を含む）	1名	1名
臨床実習指導者資格の取得	理学療法士・作業療法士	指導者資格取得	1～2名	7名

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	放射線診断科	総括責任者	部長 屋代 英樹
—		副責任者	主任医長 永田 芳美

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①CT・MRIを初めとする画像診断機器の有効的活用による検査数の増加と、共同利用数の増加を図ります。
- ②画像診断管理加算2体制の維持による臨床医への速やかな検査結果報告による医療の質向上を図ります。
- ③ドクターズクラーク導入によるワークシェアなどによる医師の事務作業時間の短縮、時間外労働の減少を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
CT検査予約待ちの解消の体制を維持する	医師、放射線技師	検査予約待ち日数	即日実施	即日実施
MRI検査数の増加	医師、放射線技師	MRI検査数	7,000件	5,726件
紹介患者獲得のための開業医への連携強化	医師、放射線技師	紹介数	委託検査数維持	2,197件
画像診断管理加算2体制の維持	医師	翌診療日読影率	80%以上	96.92%
医師の業務時間短縮のためのワークシフト	医師、放射線技師、ドクターズクラーク	時間外労働時間	放射線診断科平均時間外（最高60時間、平均40時間）	最高 98時間18分 平均 48時間19分

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①夜間・休日読影により質の高い救急医療へ貢献します。
- ②緊急IVR体制の確保により安心できる救急医療を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
夜間・休日読影体制の確立 (ボランティアに依存する体制を脱却し、オンコール体制・読影環境整備を行う)	医師	オンコール体制確立 読影体制確立	オンコール体制を確立	ボランティアにより全例対応
緊急IVR応需体制維持 (非オンコール体制に依存する体制を脱却し、オンコールの環境整備を行う)	医師・放射線技師 看護師	緊急・準緊急IVR件数	60件以上	170件

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	放射線診断科	総括責任者	部長 屋代 英樹
—		副責任者	主任医長 永田 芳美

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①画像診断管理加算を維持するための、人員確保・環境整備を行います。
- ②頭部MRI加算を取得するための体制を確立します。
- ③協力体制の元、ステントグラフト治療、血管形成術を行い、心臓外科・血管外科の入院診療単価の向上を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
全件読影体制を維持するための人員確保、維持	医師	常勤医数	診断専門医4人	診断専門医3人
頭部MRI加算取得	医師、技師	頭部MRI加算取得	頭部MRI加算取得	頭部MRI加算未取得 (夜間・休日読影体制 検査前管理)
ステントグラフト治療数	医師	手術数	30件以上	47件
血管形成術	医師	手術数	60件以上/年	84件
診療密度を上げるための治療前検査の増加	医師	IVR前US検査の導入	導入	未導入

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①放射線診断科職員の放射線診断専門医、IVR専門医取得・維持を行い、画像診断管理加算2の取得体制やIVR応需体制を維持します。
- ②多職種への注射技術の指導をおこないワークシフトを促進します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
放射線診断専門医維持のための学会参加	医師	参加数	規定の参加ポイントの取得	10回
IVR専門医取得・維持のための学会参加	医師	参加数	規定の参加ポイントの取得	2回
院内にて静脈注射講習会を行い、看護師・臨床研修医師・診療放射線技師の静脈注射技術の向上を図る	医師	講師回数	2回	合計2回
IVR関連の学会発表を行い、関連科を含め他IVR研修希望の常勤医確保を図る	医師	学会発表数	筆頭・共同含め4回	筆頭8回 (研修医の指導を含む)

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	放射線診断科	総括責任者	部長 屋代 英樹
—		副責任者	主任医長 永田 芳美

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①学会発表による知見の普及を図ります。
- ②看護大学校における講義を行い、地域における当院の役割や、放射線診療の実態周知に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
学会発表・論文発表	医師	発表数	筆頭・共同含め4回	8回
看護大学校での放射線科講義の実施による教育への協力	医師	講座数	1回	1回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	放射線治療科	総括責任者	部長	今宮 聡
—		副責任者	主任医長	早田 格

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①高点数である高精度放射線治療(オリゴ転移に対する定位照射など)の割合を維持・増加します。
- ②光学的ポジショニングシステムのバージョンアップによる機能強化でセットアップ精度向上、IGRT件数の増加、患者負担軽減を図ります。
- ③当科単独での集患は困難なため院内他科、他院からの治療依頼増加します。(放射線治療適応症例の掘り起こし)

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
照射時間短縮を目的としたFFF照射	放射線技師、医師	適応症例へのFFF照射の開始	FFF照射の物理的検証完了	なし
被照射肺容積低減のため右乳癌のDIBH照射	医師、放射線技師	検証完了・照射開始	検証完了し有効時治療開始	なし
障害・副反応低減のための息止め定位照射	医師、放射線技師	検証完了・照射開始	検証完了し有効時治療開始	なし
オリゴ転移に対する定位放射線治療、VMAT症例数の増加	医師、放射線技師	治療件数	5件	3件
前立腺癌に対する直腸周囲ハイドロゲルスペースー併用の短期(76回→20回)IMRT	医師、放射線技師	前立腺短期IMRT件数	3件	なし

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①患者さんやご家族への解りやすい説明を行います。
- ②初診から治療開始までの期間および治療期間を短縮し、全体の待ち時間減少を図ります。
- ③放射線治療に伴うストレスや障害を低減し治療期間を短縮します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
ホームページ作成と拡充、外來說明ビデオの拡充	医師、放射線技師 看護師	治療の説明記事、動画の更新	3件	2件
放射線治療説明書の改訂、文書の追加	医師	改訂数、追加数	8件	8件
光学的患者ポジショニングシステムによるマーカーレスセットアップ	放射線技師、医師	マーカーレスセットアップ件数	マーカーレスセットアップ開始 5件	なし(機能的不可)
息止め体幹部定位照射のFFF照射	放射線技師、医師	適格症例へのFFF照射件数	3件	なし
前立腺癌に対する直腸周囲ハイドロゲルスペースー併用の短期(76回→20回)IMRT	医師、放射線技師	前立腺短期IMRT件数	3件	なし

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	放射線治療科	総括責任者	部長	今宮 聡
—		副責任者	主任医長	早田 格

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①院内および院外からの依頼件数増加を図ります。
②治療単価を増加します。

	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
ホームページ作成、拡充	医師、放射線技師	治療説明、治療成績記事および動画の作成、更新	3件	2件
高点数となる定位放射線治療件数の増加、VMAT症例数、割合の増加	医師、放射線技師	定位放射線治療件数 VMAT症例割合	80件、40%	56件、31.2%
IGRT(画像誘導放射線治療)の請求点数増加(請求可能症例全例請求)	医師、放射線技師	IGRT算定数、請求点数	160件、平均300点	137件、平均280点
関係各科とのカンファレンスや緩和医療委員会などで放射線治療の有用性周知	医師	照射患者数	200件以上	180件

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度(やりがい度)の獲得(職場環境、研修・教育、評価と処遇改善)
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

放射線治療認定施設基準B取得にあたり今後加速的に厳くなる放射線安全管理、放射線治療品質管理に対処するため院内放射線管理を厳格化し管理実態の神奈川県内公立病院NO.1を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
放射線治療品質管理カンファレンスの開催	医師、放射線技師 看護師	開催回数	年6回(2カ月毎開催)	0回
研修医クルズスへの参加	医師	参加可否	1回	1回
IGRT(CBCT)の被ばく管理	放射線技師	検証・測定記録作成	全例検証・記録	必要時検証のみ

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献(災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など)
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①平塚市市民アカデミー「市民病院の現場から」で講演します。
②認定施設基準維持のため2024年度までに放射線治療関連学会で発表します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
上記アカデミーで講演	医師	講演実施の有無	1回	なし
日本医学放射線学会または日本放射線腫瘍学会での発表	医師・技師	演題採択	1件	なし

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	救急科・救急外科 救命救急センター	総括責任者	救命救急 センター長	葉 季久雄
病棟名	救命救急センター (救急外来・救急病棟)	副責任者	看護科長代理	面田 利文

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①救命救急センターとして、「断らない救急医療」を実践します。 ②生命の危機に瀕した重症患者を受け入れます。
 ③救命救急センター内の職種の垣根を越えた連携を図り、よりよいチーム医療を実践(『多職種回診』)します。
 ④地域救急隊との連携を向上させます。 ⑤地元医師会と連携し、救急医療と在宅医療の連携をはじめます。
 ⑥RRS(rapid response system)の定着をめざします。 ⑦重症入院患者数を増やす方策を検討し、患者さんを受け入れる重症病床を整備します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
近隣消防本部への挨拶回り	医師・事務(医事課)	訪問回数	2回	1回
救急患者受入数/応需率	医師	受入患者数	9,200人/98.0%	10,703人/98.0%
救急搬送患者入院数/救急搬送患者入院率	医師	受入患者数のうち入院した患者の率	2,944人/32.0%	3,259/30.4%
年間重篤患者数 (厚生労働省「救命救急センターの充実段階評価」)	医師	重篤患者数	1,150人	1,139人
ハイケアユニット用の重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者の入院割合	医師	重篤患者数	35%	53.9%
多職種カンファレンス・回診の実施	医師・看護師・薬剤師・MSW・リハビリ技師・管理栄養士	早期離床・リハビリテーション加算 /早期栄養介入管理加算 件数	280件/月 150件/月	2680件/9か月 1331件/9か月
救急事例検討会の開催	医師・事務(医事課)	開催回数	3回	1回
救急医療と在宅医療の連携会議	医師会・医師・事務	会議参加数	1回	コロナのため0回
RRS定着にむけての講習会の開催	医師・看護師	講習会開催回数	2回	2回
RRS(外来+病棟)起動件数	医師・看護師	RRS起動件数	外来+病棟 50件	外来19件 病棟23件
院内トリアージ件数の増加	医師・看護師	トリアージ件数	小児400件 成人1,100件	小児394件 成人997件
特定集中治療室管理料4取得に向けて	医師・看護師・事務	特定集中治療室管理料4取得	特定集中治療室管理料4取得	なし
病院救急車の運用による重症患者(紹介)の獲得	医師・事務	運用開始	運用開始(2024.4.~) 準備を整える	なし

II 患者満足度の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①救命救急センターとして、「断らない救急医療」を実践します。
 ②救命救急センターとして、救急医療に関する情報を発信します。
 ③接遇を向上させると共に、受診時間の短縮に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
救急隊からの受入を促進する	医師	応需率	98%	98.0%
様々なツール(病院本、Smile!・ホームページ)を通じた広報活動	医師・看護師	情報発信したツール数	2件	0件
接遇を向上させる	医師・看護師	クレーム数	10件未満	2件

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	救急科・救急外科 救命救急センター	総括責任者	救命救急 センター長	葉 季久雄
病棟名	救命救急センター (救急外来・救急病棟)	副責任者	看護科長代理	面田 利文

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①救急搬送件数を増加させます。 ②救急外来スタッフのコスト意識の向上を図ります。
 ③入院患者数(軽症経過観察・重症集中治療)を増加させ、入院稼働額の増加をめざします。
 ④救命救急センターの充実段階調査でS評価を目指します(3～5か年計画)。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
救急患者受入数増加 とくに重症患者受入数増加(救急外来)→Iにも掲出	医師	受入患者数	9,200人	10,703人
重症患者を中心とした入院管理を行い、入院稼働額をあげる	医師	入院診療単価	115,000円 (救急科・救急外科)	救急課125,132円 救急外科150,364円
重症患者を中心とした入院管理を行い、入院稼働額をあげる	医師	入院患者数	110人・40人/年 (救急科・救急外科)	救急科120人 救急外科39人
救急病棟の入院稼働率(利用率)上昇	医師・看護師・事務	病床利用率	65% (空床の1床を運用しているとして80%)	73.5% (稼働病床ベース)
救急病棟の入院稼働額上昇	医師・看護師	入院診療単価	150,000円	164,762円
救命救急センターの充実段階調査でS評価をめざす(3～5年計画)	医師・事務	厚生労働省 救命救急センター充実段階調査	(3～5年で) S評価	A評価

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度(やりがい度)の獲得(職場環境、研修・教育、評価と処遇改善)
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①院内研修会への参加により、他分野の見識を深めます。 ②専門職としての自己研鑽に努め、教育や研究活動に参加します。
 ③救命救急センターとして救命処置の院内教育に努めます。 ④特定行為研修への協力・認定看護師研修受講者の選定を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
院内研修会への参加	医師・看護師	参加数	1人あたり4回	1人当たり4.6回
看護研究の立案、実践	看護師・医師	行う看護研究の数	1件	0件
働きやすい職場環境の調整	看護師	離職率	5%未満	2.6%(2名)
院外研修会への参加	医師・看護師	参加数	1人あたり1回	外来1.1回/人 病棟0.5回/人
JTASを受講する	看護師(ER)	参加数	2人	3人
院内BLS/ICLSコース/ISLSコースの開催	医師・看護師	各開催回数	月1回(8月以外)/2回/3回	9回
特定行為研修(看護師)の実践・協力	看護師・医師	研修終了者/協力者	2人/2人	なし
認定看護師研修受講者の選出・参加(2か年計画)	看護師	新規認定看護師資格取得者	1人	なし

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	救急科・救急外科 救命救急センター	総括責任者	救命救急 センター長	葉 季久雄
病棟名	救命救急センター (救急外来・救急病棟)	副責任者	看護科長代理	面田 利文

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①救急ワークステーション(救急WS)を通じて、重症傷病者に対する病院前からの医療に参画します。
 ②災害に即応できる体制、能力を構築します。 ③救急救命士の実習を受け入れ、育成に努めます。
 ④学生教育を受け入れ、学生に救急医学に関心を持ってもらいます。 ⑤認定看護師・看護師の能力を活かした健康教育を行います。
 ⑥論文、学会発表を通じ、academic emergency physician, academic acute care surgeon, academic ER nurse としての地位を確立します。
 ⑦医療系学生もしくは中高生へ向けた「救命救急センター」紹介・体験企画を行い、興味・関心を持ってもらいます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
救急WSでの出動	医師・看護師	救急WS出動件数	150件	154件
災害訓練への参加	医師・看護師・薬剤師・技師	訓練参加数	2件	1件
救急救命士の病院実習を受け入れる	医師・事務	受け入れ救急救命士数	85人	84人
医学部学生の臨床実習を受け入れる	医師	受け入れ学生数	32人	32人
論文発表、学会発表を通じたacademismの獲得	医師	論文数	1(共著者含む)	2(共著者含む)
論文発表、学会発表を通じたacademismの獲得	医師・看護師	学会研究発表数	8(共同演者含む)	25(共同演者含む)
認定看護師・看護師による健康講座の開催 市民への講演・看護学生への講演	看護師	講演数	3回	6回
医療系学生(中高生)向け見学企画『ひらつかER救命救急センター 24時』の開催	医師・看護師・事務	開催数	1回	0回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	麻酔科	総括責任者	部長	中川 基人
—	中央手術室	副責任者	医長	唐木田 曜

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

積極的に手術を受け入れ、新入院増加につなげます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
全身麻酔件数の増加	医師	全身麻酔件数	3,300件	3,162件
常勤麻酔科医が担当する手術件数の増加	医師	麻酔管理料Ⅰ算定件数	750件	677件

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

周術期評価を積極的に行い、侵襲防御を改善します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
神経ブロックの実施	医師	神経ブロック実施件数	350件	337件
硬膜外麻酔の代替として神経ブロックを実施	医師	硬膜外麻酔の代替として神経ブロックを実施した件数	200件	163件
術前後の対面診察	医師	対面診察をした患者数	常勤医が麻酔管理すると予定している患者を対象とし	新規項目

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	麻酔科	総括責任者	部長	中川 基人
—	中央手術室	副責任者	医長	唐木田 曜

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

職員給与費対医業収益比率の改善に努め、保険償還される診療材料を積極的に使用していきます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
業務調整による非常勤医師時間外勤務の削減	医師	年間時間外勤務時間数	150時間	194.75時間
常勤麻酔科医の時間外勤務の削減	医師	年間時間外勤務時間数	250時間	294時間
保険償還されるA lineを積極的に使用	医師	フロートラック使用数	150個	123個
保険償還されるCVを積極的に使用	医師	プリセップ使用数	70個	54個

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

手術室看護師に麻酔診療の説明をし、質と速度を高めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
学習会	医師	開催回数	3回	1回

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学会活動を行い、学術面での最新の知見を積極的に取り入れます。救命士の挿管実習を受け入れ、予後改善に協力します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
麻酔関連学会の参加、講義視聴	医師	参加数、受講数	10回	5回
救命士挿管実習の指導	医師	挿管手技の指導	15名	12名

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	看護部	総括責任者	看護部長	稲村 ほづみ
—		副責任者	副看護部長	山中 享子 千葉 多恵子

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

①チーム医療やタスク・シフト/シェアの推進及び医療サービスの充実にもつなげる、特定行為看護師の育成機関となることを目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
特定行為研修指定医療機関として、特定行為看護師の育成を行う。	診療部 看護部	10月特定行為指定研修機関認可	救急パッケージ、栄養に係わるカテーテル管理(PICC)	実績なし

II 患者満足度の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

①患者目線での看護の提供、ホスピタリティの向上を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
抑制帯使用率の減少を図る。	診療部 看護部 多職種	抑制帯使用率・転倒転落インシデント件数・認知症ケアチームラウンド数	抑制帯使用率15%未満	抑制帯使用率21% 認知症ケア加算2取得

III 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

①効率的な病床運用と人材配置を行い新入院患者の受入を積極的に行います。
②人材確保と定着を重視した活動を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
ICUとHCUの再整備と拡充する。	診療部 集中治療室 看護部	ICU8床、HCU4床の稼働状況と収益	ICU8床、HCU4床稼働80%以上	HCU10床運用稼働66.2%
看護学生への採用広報活動を強化する。	看護部	入職者数	新卒看護師36人以上・既卒看護師6人以上/年	新卒34人・既卒4人/年
定年延長に伴う看護師・管理職経験者の効率的な活用について検討する。	看護部	業務内容の把握と設定	業務内容の具体案を作成	実績なし

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	看護部	総括責任者	看護部長 稲村 ほづみ
—		副責任者	副看護部長 山中 享子 千葉 多恵子

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①チーム医療推進と、看護の質を向上することに寄与する特定・認定看護師の育成を計画的に行います。
- ②人材定着のために看護職の働き方についても見直しを図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
特定行為看護師を院内で育成する。	看護部 診療部	受講者数、診療報酬対応	救急パッケージ受講:2人/年 栄養に係わるカテーテル管理(PICC)受講:2人/年	実績なし
認定看護師を計画的に育成する。	看護部	がん看護系認定看護師教育課程への応募状況	がん化学療法認定看護養成学校受講可1人/年	1人/年 (認知症ケア認定看護師)
始業開始時間を適正化することで、看護師のWLB等の処遇改善に繋げる。	看護部	始業開始時間遵守状況、持参薬の取り扱い、適正な指示出し	全ての部署において、始業開始時間の適正化遵守	救急、ICU、小児、外来、手術室以外の部署の看護師が夜勤時2時間前出勤をしている

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①院外の看護に係わる学生等に対して、教育的指導を行う機会を増やします。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
看護学校や地域へ講師派遣件数を増やす	看護部	講師派遣数	30件/年	11件/年
看護の実際を動画にしてホームページへアップ	看護部 特定・認定看護師	ホームページ等への動画アップ件数	2本	なし

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	全科	総括責任者	室長 中川 基人
—	ICU・CCU	副責任者	看護科長代理 高橋 しのぶ

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

多職種と協働し、質の高い高度な医療を提供するICU,CCUの運営を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
早期(入室後48時間以内)にリハビリが開始出来る	医師・看護師・リハビリ技師	早期離床・リハビリ加算取得人数	960人	709人 (7月～3月)

II 患者満足度の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者・ご家族から信頼・安心される環境を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
患者・御家族の要望を十分に聴取し、丁寧な説明を行う	医師・看護師	お褒めの言葉	9件	9件
意思決定支援に参加する	医師・看護師・多職種	基準に沿ったIC時の対応	100%	100%(同席できない場合のその後の対応を含む)

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	全科	総括責任者	室長 中川 基人
—	ICU・CCU	副責任者	看護科長代理 高橋 しのぶ

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

特定集中治療室加算取得に向け効率的な病床運用を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
重症度・医療看護必要度の加算基準をクリアする(ハイケア用)	医師 看護師	A 項目3点以上B項目4点以上	91.00%	90.45%
重症度・医療看護必要度の加算基準をクリアする(特定集中治療室4加算取得後は特定集中治療室用)	医師 看護師	A 項目3点以上	70%	—
病床利用率の向上	医師 看護師	病床利用率	100%	66.2%

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度(やりがい度)の獲得(職場環境、研修・教育、評価と処遇改善)
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

ICU,CCUとして質の高い看護を提供出来る看護師を育成します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
急変の対応が出来る看護師の育成	看護師	BLS研修参加者数	15人	20人
院内、院外研修参加	看護師	参加数	1人あたり5回	1人あたり5回

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献(災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など)
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
周術期に関わる看護学生の受け入れ	看護師	受け入れ人数	12名	12名
認定看護師による地域での講義の実施	認定看護師	実施回数	1回	0回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	薬剤科	総括責任者	部長 高田 みゆき
—		副責任者	科長 門倉 徹

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

適正かつ経済的な薬物使用に寄与します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
入院臨時注射の払出し方法の変更	薬剤師、医師、看護師	臨時注射薬品の使用状況把握	入院臨時注射の注射調剤システムによる払出しの導入	—
外来化学療法におけるバイオ後続品の促進	医師、薬剤師	後続品の使用本数	対象患者へ実施	63本
術後疼痛管理加算取得に向けて薬剤師研修	薬剤師	所定の研修終了	1～2名	—
薬剤師の人材確保に努める	薬剤師、事務職	応募数	募集数以上の応募数の確保	募集数5名／応募者15名

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者さんや地域市民のみなさんへ薬の正しい服用を推進します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
服薬指導(入院患者薬剤管理指導料、入院患者退院時薬剤情報管理指導料)の実施	薬剤師	服薬指導算定件数(入院服薬指導算定件数+退院指導算定件数)	13,000件	13,177件
薬業連携の推進	薬剤師、医師、看護師、病診連携、保険薬局	地域かかりつけ薬局との連携を図る	その他レジメン公開及び連携充実加算取得	肺、食道、胃、肝、胆道、大腸癌レジメン公開

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	薬剤科	総括責任者	部長 高田 みゆき
—		副責任者	科長 門倉 徹

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ・薬品購入費の削減に努めます。
- ・服薬指導の積極的な実施により収入を確保します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
服薬指導(入院患者薬剤管理指導料、入院患者退院時薬剤情報管理指導料)の実施	薬剤師	服薬指導算定件数(入院服薬指導算定件数+退院指導算定件数)	13,000件	13,177件
外来化学療法におけるバイオ後続品の促進	医師、薬剤師	後続品の使用本数	対象患者へ実施	63本
後発薬品使用体制加算1の継続	薬剤師	後発品の切替え率	90%以上	90%以上
薬薬連携の推進	薬剤師、医師、看護師、病診連携、保険薬局	地域かかりつけ薬局との連携を図る	その他レジメン公開及び連携充実加算取得	肺、食道、胃、肝、胆道、大腸癌レジメン公開

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度(やりがい度)の獲得(職場環境、研修・教育、評価と処遇改善)
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

院内職員に学習の機会を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
医薬品安全管理研修会の開催	薬剤師	講演回数	1回	1回

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献(災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など)
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①学期発表など学術活動の充実を図ります。
- ②情報発信により、地域貢献に取り組みます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
実務実習受入	薬剤師	学生実習受入数	3人	6人
院外薬局への講習会の開催	薬剤師、医師	講習回数	6回	5回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	放射線技術科	総括責任者	科長	石川 修二
—		副責任者	科長代理	河並 昭彦

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①MR2台体制により平日検査検査枠を1.5倍にし検査数増加に努めます。
- ②開業医に医療機器の共同利用をして頂くために機器の説明訪問します。
- ③整形外科カンファレンスに参加し、技術科への要望に対応します。
- ④高精度放射線治療を推進します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
昨年度末に導入完了したMRの平日予約枠の1.5倍にする	放射線技師、診断部医師、看護師	7,500枠	7,500枠	土日抜いた実績5,023件
紹介患者獲得のため開業医へ訪問	放射線技術科管理職、地域連携室	地域連携室依頼に90%同行	地域連携室依頼に90%同行	17件、100%
整形外科カンファレンスに参加	放射線技師、整形外科医師	要望応需率	整形外科要望応需率	なし
高精度放射線治療の推進	放射線技師	高線量率照射について医師の要望に応えるよう準備する	対応可能にする	なし

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①全診療科の緊急検査にたいして対応能力を強化します。
- ②冠動脈予約枠を拡充します。
- ③現在週2件の予約頭部CTA、CTP枠を撤廃し、特殊検査から通常検査に移行します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
全診療科の緊急検査(特に血管系)に対応する	放射線技師	応需率	応需率100%	応需率100% 330件
冠動脈CT検査予約日、予約枠を拡充する	放射線技師、循環器医師、看護師	検査数	450件	410件
頭部CTA、CTPの検査脳神経内科、脳神経外科予約枠を残し全科依頼用に枠を増やす	放射線技師、診断部医師、看護師	検査数	250件	200件

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	放射線技術科	総括責任者	科長	石川 修二
—		副責任者	科長代理	河並 昭彦

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①医療機器の施設共同利用で委託検査を維持、増加に努め収入を安定させます。
- ②放射線機器の修理費の削減に努めます。
- ③ルミネスバッジの無駄なコストを無くします。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
委託検査数の維持、増加を目指します	放射線技師、診断部医師、看護師、地域連携室	放射線技術科委託検査数(MR、CT、RI、DXA)	2,000件	1,866件
放射線技術科管理機器の修理費削減	放射線技術科管理職	修理費定価より20パーセント削減	修理費20パーセント	修理費22%削減
ルミネスバッジの配布を適切に行う	放射線取扱主任者、保健指導室、総務課	不在者配布件数	0件	なし

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①院内外の講習会に参加し専門知識の向上に努めます。
- ②専門資格を維持、推進します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
各学会、講習会の参加数	放射線技師	延べ参加人数	100名	92名
専門資格の保持、推進への取り組み	放射線技師	延べ有資格者数	40名	40名

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①院内外で学術、研究、などの活動を行います。
- ②放射線治療の均てん化に貢献します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
院内外の講習会、学会等の発表、登録数	放射線技師	発表、登録数	4件	4件
放射線治療施設の標準化への技術部門での貢献	治療科医師、放射線技師、看護師	日本放射線腫瘍学会認定	取得	なし

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	臨床工学科	総括責任者	科長	熊澤 義雄
—		副責任者	科長代理	中西 利基

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

医療機器の安全管理に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
機器のME管理の推進	臨床工学科	管理機器を増やします。	2機種	2機種
ME機器の安全使用の推進	臨床工学科	安全情報の掲示を行う。 (仮称 ME安全情報)	12件	—

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者満足度を高めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
わかりやすい情報を発信します	臨床工学科	HP更新数	2回	2回
透析用内シャントの育成を支援します	医師/臨床工学技士	訪問回数	2回/名	1.37回/名

III 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

病院経営を意識した業務実施に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
透析用内シャントの育成を入院期間の適正化につなげます。	医師・臨床工学技士	入院期間の短縮	9.6日	16.5日
医療機器保守管理の推進をはかります	臨床工学技士	修理・点検情報の発信。 (仮称 ME機器たより)	12件	—

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	臨床工学科	総括責任者	科長	熊澤 義雄
—		副責任者	科長代理	中西 利基

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①医療機器の使用方法を学ぶ機会を提供します。
- ②知識、技術の向上を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
医療機器ハンズオン体験会の実施	臨床工学技士	体験機種数	4機種	3機種
院外研修・教育会の参加	臨床工学技士	参加回数	3回/名	3.1回/名

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

研究発表など学術活動を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
研究発表を行います	臨床工学技士	発表数	2回	1回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	臨床検査科	総括責任者	科長	久保谷久子
—		副責任者	科長代理	間地 知子 内田 正則

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

地域市民に向けた活動を実施します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
乳腺カンファレンスの実施・参加	医師・臨床検査技師・放射線技師	開催数と参加人数	前年度維持	術前週1回・術後週1回
ブルーサークルフェスタ(糖尿病週間)への協力	糖尿病診療対策委員会	共同参加	1回	0回
湘友会(糖尿病友の会)への参加と講義	糖尿病診療対策委員会	講義回数	1回	0回

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者さんに安心・安全かつ快適でわかりやすい検査(採血)を提供するよう努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
患者さんにわかりやすい検査動線の説明	臨床検査技師	受付・窓口での案内説明の実施	患者アンケートでの苦情を0件にする	患者アンケートでの苦情7件(満足度調査にてやや不満以下2.3%・令和4年11月実施)
散人職員採血訓練	臨床検査技師	患者満足度調査のポイントアップ	4.8	4.6

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	臨床検査科	総括責任者	科長	久保谷久子
—		副責任者	科長代理	間地 知子 内田 正則

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

職員のコスト意識向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
業務効率化による時間外勤務の削減	臨床検査技師	時間外勤務時間数が月20時間越えた人数	2人	4人
スタッフミーティングの就業時間内実施	臨床検査技師	就業時間内実施	50%	0%

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①新人教育を行います。
- ②職員の能力向上を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
各部署における新人教育および当直訓練	臨床検査技師	新人教育評価マニュアルによる評価	各部署での研修と当直業務を可能にする	新人5名の研修及び当直業務達成
学会・研修会への積極的な参加	臨床検査技師	学会・研修会参加回数	平均7回/1人	平均6回/1人

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学生教育を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
臨地実習生の受入指導	臨床検査技師	受入人数	3人	2人

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	栄養科	総括責任者	科長	古屋 久美子
—		副責任者	主管	菅谷 稚夏

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

質の高い栄養計画の立案、実施をチーム医療で展開します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
早期栄養介入管理実施数ICU	管理栄養士、医師、看護師	件数	850件	629件
早期栄養介入管理実施数救急病棟	管理栄養士、医師、看護師	件数	2,000件	1,519件
嚥下調整食の質の改善,献立改定	管理栄養士、NST	件数	30件	未実施

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

おいしく、治療にむすびついた安全な給食提供に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
当院の治療食紹介、PRの実施(ホームページなど)		回数	3回	未実施
給食での地場産食材の使用	管理栄養士、委託給食会社	実施献立数	10回	未実施
出産お祝膳の献立充実(和洋セレクト実施)	管理栄養士、委託給食会社	件数	1件	未実施

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	栄養科	総括責任者	科長 古屋 久美子
—		副責任者	主管 菅谷 稚夏

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

病院経営を意識した業務実施に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
食材品質を落とさず食材料費を維持する取り組み	管理栄養士、委託給食会社	食材費	900円/日/人	847円
入院栄養食事指導実施数	管理栄養士	件数	1,400件	1,233件

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

働きやすい職場づくりに取り組みます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
健康的な食生活支援イベントの開催（職員向き）	管理栄養士	開催数	1回	未実施

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

地域住民へ健康的な食生活情報の発信に努めます

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
糖尿病患者会イベント開催	管理栄養士、糖尿病診療対策委員会	開催数	1回	0回
地域健康教室等の出張講座	管理栄養士	開催数	2回	1回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	医療安全管理室	総括責任者	室長	杉木 正
—		副責任者	室長代理	片岡 誠

I 医療の質と効率の視点		【将来構想】50～52ページ
経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

安全で質の高い医療を提供する環境を整備します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
リスク管理を推進する	医療安全管理統括責任者 医療安全管理者 セーフティマネージャー セーフティスタッフ	日本病院協会QI 1ヶ月間・100床当りのインシデント・アクシデント件数(中央値)	37.0件	60.0件
		日本病院協会QI 全報告中医師による報告の占める割合(中央値)	2.80%	4.00%
		レベル3以上報告件数	50件以内	35件
		レベル0報告件数	1,000件以上	1,189件
		インシデント・アクシデントレポート第一報報告平均日数	2日以内	1.69日

II 患者満足の視点		【将来構想】53～55ページ
経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

医療事故発生を防止するよう努め、患者さんが安心して受診、療養できる環境を整えます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
レベル3b以上のアクシデント報告数を前年度以下とする	医療安全管理統括責任者 医療安全管理者 セーフティマネージャー セーフティスタッフ	レベル3b以上のアクシデント報告数	2件以下	2件
		再発防止策の提案	2種	7種
入院患者 転倒・転落発生率	医療安全管理統括責任者 医療安全管理者 セーフティマネージャー セーフティスタッフ	日本病院協会QI 転倒・転落発生率 中央値	0.00253	0.0017
入院患者 転倒・転落損傷発生率(レベル2以上)		日本病院協会QI 転倒・転落発生率(レベル2以上) 中央値	0.00056	0.00025
入院患者 転倒・転落損傷発生率(レベル4以上)		日本病院協会QI 転倒・転落発生率(レベル4以上) 中央値	0.00005	0.00001

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	医療安全管理室	総括責任者	室長	杉木 正
—		副責任者	室長代理	片岡 誠

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①医療安全対策に関する施設基準を維持します。
- ②医療安全に関わる加算・管理料を取得し、安全対策を強化します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
医療安全対策地域連携対策加算の取得	医療安全管理部門	医療安全対策相互連携施設数	6施設	6施設
ガイドラインに準じた肺血栓塞栓予防の実施	医療安全管理部門	肺血栓塞栓症予防管理料算定件数	2,000件	1,928件
報告書管理体制加算取得 準備	医療安全管理部門	報告書管理体制整備	報告書確認管理者の配置 報告書確認対策チームの設置	臨床検査技師・放射線技師 各1名の受講完了
二次性骨折予防継続管理取得支援	医療安全管理部門	骨粗鬆症に対する知識とFLS意義について職員研修回数	2回	2回

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①医療安全意識向上に必要とされる職員研修を開催します。
- ②研修会・学会等に参加し知識・技術の向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
医療安全研修の開催	医療安全管理部門	研修回数	7回	7回
専門医制度研修の開催	医療安全管理部門	研修回数	1回	1回
院外研修・学会への参加	医療安全管理統括責任者 医療安全管理者	参加回数	2回/人	3回/人

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	医療安全管理室	総括責任者	室長	杉木 正
—		副責任者	室長代理	片岡 誠

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①医療安全に関する情報を提供し地域貢献に取り組めます。
- ②地域医療機関と医療安全に関わる連携・相互評価を行い医療安全意識の向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
地域医療機関 医療者向け医療安全研修の開催	医療安全管理部門	研修回数	1回	0回
医療安全対策地域連携カンファレンスの開催（幹事病院）	医療安全管理統括責任者 医療安全管理者	カンファレンス開催数	6回	6回
医療安全対策地域連携相互評価の実施（監査病院）	医療安全管理部門	相互評価実施回数	4回	4回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	感染対策室	総括責任者	室長 石井 美千代
—		副責任者	臨床検査科 科長代理 間地 知子

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ① 医療関連感染による入院期間延長を防ぎます。
- ② 抗菌薬の適正使用を推進します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
広域抗菌薬の適正使用	医師・薬剤師・臨床検査技師・看護師	広域抗菌薬使用までの培養検査実施率	85%	不明
周術期抗菌薬の適正使用	医師・薬剤師・臨床検査技師・看護師	特定術式における術後24時間以内の予防的抗菌薬停止率(心臓は48時間)	85%	81.80%
尿道留置カテーテル感染防止	医師・薬剤師・臨床検査技師・看護師	症候性尿路感染症発生率	2.0/1000カテーテル使用日数	2.5/1000カテーテル使用日数

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

市民の皆さまに向けて感染防止策を発信します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
感染防止策の広報	医師・薬剤師・臨床検査技師・看護師	広報回数	1回	なし

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	感染対策室	総括責任者	室長 石井 美千代
—		副責任者	臨床検査科 科長代理 間地 知子

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

職員の感染対策への意識向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
全体研修の実施	医師・薬剤師・臨床検査技師・看護師	受講率	100%	100%

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員の能力向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
担当職員の育成	薬剤師・臨床検査技師・看護師	会議の運営	会議の運営	なし
学会・研修会の参加	薬剤師・臨床検査技師・看護師	参加回数	10回	24回

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

感染症指定医療機関として地域全体の感染対策向上を推進します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
地域医療機関への訪問指導	医師・薬剤師・臨床検査技師・看護師	訪問指導・研修開催回数	7回	7回
保健福祉事務所や医師会とのカンファレンスや訓練の実施	医師・薬剤師・臨床検査技師・看護師	カンファレンスや訓練の計画と運営	カンファレンスや訓練の計画と運営ができる	4回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	入退院支援・医療相談室	総括責任者	室長 女屋 早苗
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

地域の機関との連携強化に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
後方連携機関との面談（訪問や連携指導、共同指導を含む）を行う。	医師、看護師、MSW、PSW	面談件数	40施設と3回／年以上面談を行う。	38施設と3回／年の面談を実施。（含共同指導、連携指導）
退院時共同指導を行う。	医師、看護師、MSW、PSW	退院時共同指導料算定件数	10件／月	35件／4月～2月（3件／月）
介護支援等連携指導を行う。	医師、看護師、MSW、PSW	介護支援等連携指導料算定件数	20件／月	105件／4月～2月（9件／月）
入退院支援リンクナース会で訪問看護ステーションとの情報交換会を行う。	入退院支援リンクナースと入退院支援・医療相談室の看	情報交換会開催数	2回／年	0

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

地域と連携して患者さん・家族に安心安全な医療を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
がん相談支援センターの充実を図るため、相談員研修を受講し、相談員数を増やす。	看護師、MSW	がん相談支援センター相談員数増加	3名以上にする	実質2名（内1名退職）
患者・家族が安心して、退院することができるように退院時共同指導、介護支援等連携指導を行う。	医師、看護師、MSW、PSW	退院時共同指導料算定件数 介護支援等連携指導料算定件数	10件／月 20件／月	3件／月 9件／月
患者・家族に安心安全な医療を提供するために同行訪問、退院後訪問を実施する。	特定認定看護師、看護師	訪問看護件数	5件／月	13件／4ヶ月で

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	入退院支援・医療相談室	総括責任者	室長 女屋 早苗
—		副責任者	

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

経営に参画する意識を持ち、貢献します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
入退院支援関連の診療報酬算定を漏れなく行う。	看護師、医師、MSW	入院時支援加算1算定件数 入退院支援加算1算定件数 介護支援等連携指導料算定件数 退院時共同指導料2算定件数	150件／月 600件／月 20件／月 10件／月	118件／月 532件／月 10件／月 3件／月

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員の能力向上と病院経営の理解に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
学会や院外研修に参加する	入退院支援・医療相談室常勤看護師、MSW、PSW、公認心理師	参加回数	1人年2回以上	年10回以上の職員もおり、平均的には年5回程度院外研修等に参加していたが、年2回未満の職員もいた

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学生教育を通して、患者を生活者としてとらえることができる医療従事者育成に貢献します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
看護学生の在宅看護論実習を受ける	入退院支援・医療相談室看護師	実習を受け入れた学生の人数		0

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	経営企画課	総括責任者	課長	相澤 史幸
—	—	副責任者	課長代理 担当長	千葉 伸吾 高梨 一広

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①平塚市民病院将来構想を着実に推進します。
- ②適正に病院会計業務を遂行します。
- ③院内への将来構想の理念の浸透に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
医療情報システム導入(更新)事務	事務職	スケジュールどおりの進捗	導入完了(GW)及び更新後作業とフォローアップの実施(6月末まで)	(R5.3月まで)スケジュールどおり進展
若手職員と幹部の座談会の実施	事業管理者、病院長、事務職	実施回数 ワークショップへの展開	2回	3回 (R4計画には掲載なし)
ワークショップHCHの運営管理	事務職	次年度に向けた提案	完了	完了
病院フォーラムへの参加	全職種	発表演題数 傍聴者数	10題以上 100人以上	10題 約100人 (R4計画には掲載なし)
診療録の質的監査の実施	事務職	監査の実施回数	2回	2回

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者、市民に対して、積極的に情報を発信します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
診察案内アプリ機能の導入	事務職	導入完了	完了	—
病院PR用パンフレットの発行	医師、看護職、医療技術職、事務職	発行種類数	2種類以上	4種類発行 (総合、周産期、個室、ロボット)
市民健康講座の開催(院内外、オンライン)	医師、看護師、医療技術職、事務職	開催回数	年2回	開催なし
病院広報誌「SMILE！」の発行	医師、看護職、医療技術職、事務職	発行回数	4回	4回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	経営企画課	総括責任者	課長	相澤 史幸
—	—	副責任者	課長代理 担当長	千葉 伸吾 高梨 一広

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①事業運転資金を確保します。
 ②経営健全化のため、経営改善を実施します。
 ③「(仮称)経営強化プラン」の策定を進めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
(仮称)平塚市民病院経営強化プランの策定	事務職	プランの策定	完了	病院運営審議会での1次案の提示
年度別重要目標の設定と数値管理	事務職	目標設定とモニタリング	完了	完了
若手職員と幹部の座談会の実施【再掲】	事業管理者、病院長、事務職	実施回数 ワークショップへの展開	2回	2回 (R4計画には掲載なし)
「経営通信」の発行	事務職	発行回数	4回以上	4回 (R4計画には掲載なし)
インボイス制度(適格請求書等保存方式)への対応	事務職	財務会計システムの更新制度を理解し、運用する	システム更新 院内での適切な運用	—

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度(やりがい度)の獲得(職場環境、研修・教育、評価と処遇改善)
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

院内外の研修に積極的に参加することで、職員の能力向上を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
経営マネジメント全般、職員行動計画の策定やデータ分析に関する研修会等への参加	事務職	研修会等への参加	年1回以上	1回
経理知識の向上を図るための研修会等への参加	事務職	研修会等への参加	年1回以上	1回
医療情報システムの知識、IT技術を深めるため、システム更新や保守、新技術等の情報収集	事務職	研修会等への参加	年1回以上	2回
院内研修会への参加	事務職	参加数	1人2回以上	1人3.6回
新人職員研修の実施	事務職	実施回数	2回	—
「経営通信」の発行【再掲】	事務職	発行回数	4回以上	4回 (計画には掲載なし)

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	経営企画課	総括責任者	課長	相澤 史幸
—	—	副責任者	課長代理 担当長	千葉 伸吾 高梨 一広

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①持続的な病院の健全経営により、公立病院が担うべき役割を果たします。
- ②患者、市民に対して、積極的に情報を発信します。
- ③災害に対応できる体制を構築します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
病院の取組について院内外に発信する(学会等)	事務職	発表数	1回	1回
市民健康講座の開催【再掲】	医師、看護師、医療技術職、事務職	開催回数	年2回	開催なし

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	病院総務課	総括責任者	課長	野上 正志
—		副責任者	課長代理 担当長	砂川 正 鈴木 昌樹

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

質の高い高度医療の提供と感染症対応の機能の向上を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
特定集中治療室加算による診療稼働額の向上	医師、医療技術職、看護職、事務職	当直室等の改修及び備品類の整備	改修及び整備完了	-
感染症対応機能の向上	医師、医療技術職、看護職、事務職	感染病棟等改修事業の基本設計の進捗度	基本設計完了	-

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

療養環境の向上、提供する診療機能の向上を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
診療機能向上のための機器整備	医師、医療技術職、看護職、事務職	白内障手術装置、内視鏡システム、ホルターシステムの導入と稼働件数	3件	-
利用者からの認知度向上のため救命救急センターの看板設置	事務職	看板設置工事の進捗度	設置完了	-

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	病院総務課	総括責任者	課長	野上 正志
—		副責任者	課長代理 担当長	砂川 正 鈴木 昌樹

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

効果的な資材調達の実施及び働き方改革の推進で、健全経営の実現に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
SPD業者との調達協議及び診材の見本市開催	医師、薬剤師、事務職	開催回数	4回	4回
医師に働き方改革推進のための新労務管理システムの稼働	医師、事務職	労務管理システム稼働の進捗度	稼働完了	-
時間外削減と職員の健康維持のため、ノー残業デーの実施	事務職	課員全員帰宅回数	12回	13回

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

病院事業の発展のため、職員の能力向上を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
事務職向け研修会への積極的な参加	事務職	事務職向け研修会参加回数	4回/人	3.85回/人
学会及び病院フォーラムでの発表	事務職	発表数	2件	2件
施設管理に必要な国家資格（危険物取扱者ほか）の受験	事務職	国家資格試験の受験	1件/施設チーム	-

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

市民への医療情報の提供と病院周辺環境維持に努めます

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
出前講座（公民館）の開催	医師、医療技術職、看護職、事務職	公開講座開催数	12回	7回
敷地周囲の清掃活動	事務職	活動回数	6回	6回

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	医事課	総括責任者	課長	田丸 勝巳
—		副責任者	担当長	谷川 展章 木村 隆之 芦野 義明

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①医療の質の向上と効率化を図ります。
②地域医療連携の更なる強化を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
クリニカルパスの整理と利用促進	事務職	パス利用率	50%	30.24%
登録医当日紹介ホットラインの再開及び循環器ホットライン、脳卒中ホットライン、小児科ホットラインのアピール強化	事務職	認知度	80%	58%

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①マイナンバーカードの普及に伴う、電子化拡大の利点を生かし、患者サービスの向上を図ります。
②経営的インパクトのある施設基準を取得する。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
電子処方箋の導入	事務職	実施有無	有	-
IC・CCU病棟の特定集中治療室管理料の取得	事務職	実施有無	有	-

職員行動計画書

【令和5年度】

所管部署	医事課	総括責任者	課長	田丸 勝巳
—		副責任者	担当長	谷川 展章 木村 隆之 芦野 義明

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

コスト意識を持って経営に参画します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
担当業務量の見直しを行い、時間外勤務を削減	事務職	時間外勤務時間	課内平均 10h/月減	—
未収金徴収の業者委託による未収金繰越額の縮減	事務職	未収金額	未収金繰越額総額の8%減	—

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①「人」としての質と「組織」としての質を高めることができる風土づくりを推進します。
②委託業者への研修をします。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
院外の研修会に参加し課内にフィードバック	事務職	件数	1人につき年1回	—

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

積極的に地域活動や人材育成などの社会貢献活動に参加協力します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R5目標値	R4実績
救急救命士病院実習受入人数	事務職	人数	毎年55人以上	84人